寄稿

地質調査技士に合格して

㈱日研工営　雪　田　章　儀

地質調査技士という言葉を、初めて聞いたのは、現在の会社に面接に行った時、ちょうど6年前の暑い夏だった。

その時は、あまり気にもとめず、だれでも簡単にすぐとれるもんだと思っていた。しかしいざ入社して、よく話を聞いてみると、そうそう簡単にとれるようなしろものではないとの事。年々難しくなっているとか、1回ではなかなか合格しないとか。でも元来自信家の自分は、そのころから会社のみんなに1回で合格すると豪語していた。本当は何の根拠もなかたものだが変な自信があったようだ。

そしてその年、1つ年上の先輩が試験を受けに行ったが、ものの見事に不合格だった。まあその先輩は、みんなに5ヶ年計画を宣言して5回目に合格すると言っていたのだが3回目位には合格するんじゃないかと思っていた。しかし2回目も不合格、3回目も不合格。その時点でもしかしてすごく難しい試験なのかと本気に思うようになった。結局その先輩は5回目に見事合格して宣言どおりになった訳が、日頃の行いが悪いのか、それとも…なのか、だれにもほめられることもなく逆によく5回で合格したなと、からかわれていた。自分としては、みんなにばかにされないためにも、ちゃんとふんどしをしめてかかって真面目に勉強して、最悪でも5回以内に合格しなければいけないと思った。そんな矢先に結婚して、生活のリズムが変わって、年が明けて、今年は試験の年、気合入れてやるぞと思いきや、子供が生まれ残念ながら、勉強どころではなくなってしまった。（本当はとてもうれしかったのだが）それでも少しでもやらなければと思い、ボーリングポケットブックをトラックに持ち込んで、昼休みに昼食をとった後、それを少しずつ読んだりしていた。そして、6月の講習会に行って、だいぶその気になったのだが、家に帰ると、子供がかわいくてしょうがないので、結局ほとんど勉強せず、気がつくと試験の前日になっていた。いまさら何をやってもムダと思ったがとりあえず講習会でもらってきたテキストにひととおり目を通して終った。試験当日も、朝早く起きて（仙台まで遠すぎる）寝ボケまなこで、シャーペンとケシゴムだけスーツのポケットに入れて出かけた。いよいよ試験に望んだのだが、やはり、自分の納得できるようなものではなかった。しかたがないと思いながらちょっと落ち込んで会場を後にし、悔んでもしょうがないと思い列車の待ち時間もあるので仙台駅でビールを飲んだ。試験が終った開放感からか、これがまた格別にうまかった。来年もまた来てこのビールを飲もうと思いながら帰途についたのだが、列車に乗ってからもたらふく飲んで青森に着いた時には、へべれけになっていた。そんなこんなでもう不合格だと思っていたが、奇跡は起きた。なんと一発合格していたのだ。うーんこれぞメークミラクル。まわりもみんな驚いていたが何より自分で一番ビックリしていた。これもひとえに、日頃の行いの良さと、自分の実力だと調子にのっている今日このごろである。

さて、地質調査技士に合格したわけだが、今現在何も変わった事はないと思う。自分の気持ちも変わらないし、会社内での立場も変わっていない。ただちょっとこの6年間をふり返ってみたいと思っ

た。入社した当時は毎日やめたいと思っていた。そもそもが肉体労働のうえに、雨が降っても、雪が降っても外で作業しっぱなしとくれば、ある意味土方さんよりタチが悪いと思っていた。それでも仕事を覚えていくうちにおもしろみが出てきて今にいたっているのだと思う。はじめは標準貫入試験が何の目的で、何がわかるのかすらわからず、ただがむしゃらに働いて、今日という一日がはやく終ればいいと思いながらいた。各種試験（孔内水平載荷試験　現場透水試験など）にいたっては、そのつど説明を聞き、おしえてもらっても、返事はいつも「わかった、わかった。」と言いながらも、本当は、ちんぷんかんぷんだったりもした。でも何回かやっていくうちに自然に覚えていくもので、それがすっかりわかって、うまく結果がでたりすると、とてもうれしくておもしろくて、自分が少し利口になったような気がして、けっこう自信を持てたりするものだ。そうやって仕事を覚えていくとサボリかたも覚えていく。外での仕事ならではなのだが、現場によっては、１年中遊べるのだ。春と秋は山で山菜とりができるし、夏は海岸近くだと釣りをしたり泳いだり、冬はスキー場の近くだとスキーをしたりと昼休みを利用したり、ちょっとズルして仕事をはやめにきりあげて夕方からとか（あまり大きい声で言えないが…）おもいきり日本の四季を満喫できるのだ。こればかりは、外の仕事でよかったと思う。あと、いろんな動物や昆虫にも遭ったりする。今までに遭ったのは、タヌキ、キツネ、サル、ウサギ、リス、テン、ヘビなど（さすがにまだ熊とは出会っていないが、ぜひ一度お目にかかって相撲でも取ってみたいのだが）。昆虫では、オニヤンマ、シオカラトンボ、アゲハチョウなど、最近では珍しい虫をみたりする。仕事をしていて、そんなのに出会うと妙に心が和んだりする。逆にハチとかあぶとかはあまりみたくない。もともと小さい時からきらいだったのだが、一度仕事中に手がはなせない時に、あぶが飛んできて、まぶたに止まりおもいきりかまれて、顔が、お岩さんみたいになって病院に通うというなさけない体験をした。そのためにいまだにハチが飛んでくると、機械のそばから逃げてしまったりする。こうしてみるといろんな楽しかった事つらい事とか思い出されるが、仕事の内容はあまり思い出さないような気がする。（それだけ真面目に働いていなかったのかな？。もの覚えがいい方ではないから仕方ないか。）

最後になるが、地質調査技士に合格しても自分で慢心せずに仕事を続けたいと思う。仕事はもちろん、他の事でも、あまり自信過剰になると、ちょっとしたミスや大きな事故につながって、とりかえしのつかない事になってしまったりする。そうなってからでは、おそいのでなるべく自信過剰にならず、大きな失敗をしないように心がけて行きたいと思う。そして今まで通り、少しずつ仕事を覚えていき自分のレベルをあげていきたいと思う。

新研ボーリング㈱　新　渕　正　夫

去る平成11年７月10日（土）に、第34回地質調査技士資格検定試験が行われました。

実を言うと今回の検定試験は２度目の挑戦でした。１度目は、この資格の重要性から必要に迫られて受験しました。自分なりに勉強したつもりでしたが、その取組みが遅く不合格となりました。私は落ち込みましたが、諸先輩方の励ましにより“来年は絶対合格してやるぞ”という気持ちになりました。来年の検定試験に向けて、今から勉強しようと工程を作成し、ボーリングポケットブック・前年度の受講テキストおよび参考書などを毎日10～20分程度読み、また書き写し覚えました。春になり、過去の試験問題を利用して勉強し、分からない箇所については参考書を何回も開き覚え、

また諸先輩方に教えていただきました。

試験当日をむかえ、私は緊張と不安な気持ちでありましたが、今までの勉強の成果を出そうとその試験に臨みました。

午前中に行われた筆記試験は、過去の試験問題と類似した出題傾向にありましたが、自分の不得意分野（掘進技術）は特に難しく感じられました。午後の口頭試験は、難しい質問が出たらどうしようかとかなり不安でしたが、半分開き直り、その質問に対しては大きな声ではっきり答えようと心掛けました。質問内容は幸いにも自分が分かる範囲内での質問で、正直ほっとしました。

無事に試験が終わり、やっと受験勉強から開放された気持ちになりましたが、その反面試験の合否が気になりました。

9月中旬になり、新聞発表にて試験に合格したことを知り、喜びのあまりその新聞の切り抜きを会社の諸先輩方・同僚さらに家族までに見せびらかしました。数日後、合格証が手元に届き、合格したことを実感しました。

この結果は、自分一人の力ではなく、会社を始め御指導してくださった諸先輩方・応援してくれた同僚や家族のおかげだと思っており、本当に感謝しております。

この仕事に従事して早7年が経過しました。入社当時は、右も左も分からなく、諸先輩方に指示された事だけをこなしてきただけでした。月日が経つにつれその仕事にも慣れてきましたが、技術や知識などは半人前だという意識があり、その結果諸先輩方に甘えまた大変迷惑をかけてきました。

最近の地質調査に求められてきている内容はますます高度化していく傾向にあります。

これからは、当然のことではありますが、調査目的を良く理解しその目的に合致した調査方法の立案・実施をするとともに、ボーリング技術（掘削・現位置試験）の精度を向上させ、お客様（発注者）により良い情報（資料）提供したいと思います。また、常日頃の業務を問題意識を持って取組み、日々勉強や努力をして諸先輩方に掛る負担を少しでも軽減させれるように頑張っていきたいと思います。

奥山ボーリング㈱　高　橋　　周

私が現在の会社に入社して今年で早7年目を迎えました。入社したての頃は、ボーリングに関しての知識はいっさい知らなかったので、現場に連れていかれても、先輩たちのする仕事ぶりを見て感心しっぱなしであったことが思い出されます。しかし、最近では仕事の手順も覚え、先の仕事を読めるようになってきました。

地質調査技士の受験は今年で2回目の受験でした。前回の受験の時は、地質調査技士の試験を多少甘く見ていたこともあり、見事に不合格となりました。今年は心機一転、試験直前だけ勉強するのではなく、計画的に勉強しました。とは言っても事前講習会を受講した時、テキストを見てこれではまずいと思い、昨年の二の舞だけは踏まないようにと思い直し、結局本腰をいれて勉強を始めたのはそれからでした。これまで自分の経験したことがあることについては知っていますが、知らないことについてはボーリングポケットブック、事前講習会テキストを参考にしたり、あるいは、諸先輩たちに聞いたり、現場技術についても他の現場に行ったりしながら勉強しました。

試験当日は、これまで勉強してきたこと、経験してきたことのすべてをぶつけようと思い受験しました。午前中の筆記試験は思っていたよりも難しく、十分な手応えを感じることが出来ず、不安な思いで午後の面接に向かいました。こちらは面接官の質問に対してスムーズに回答することが出来、試験全体の感触としては五分五分という感じ

でした。

合格して思ったことは、これからは自分の名刺に「地質調査技士」という肩書きが記入されるということでした。このことは、これまで一作業員であったものがこれからは一技術者へとなるわけで、周りからもそのような目で見られると思うと、責任感を感じます。

地質調査技士の資格を取得したことはゴールではなく、一技術者としてやっとスタートラインに立ったと考えます。今後は、日々精進し「地質調査技士」という名に負けることなく仕事をおしえていきたいと思います。

㈱東建ジオテック　丹　羽　廣　海

地質調査業に従事するようになって３年半、このたび運良く、初めての受験で地質調査技士試験に合格することができました。

地質調査技士という資格のことは、良く話題になるため入社してすぐに知ることになりました。現場代理人の資格として、「地質調査技士または同等以上の能力を有するもの」となっていることも多く、私自身この業種に携わる者として第一ステップである、と考えていました。

受験にあたっての対策ですが、私の場合、先輩方の受験時の体験談を聞いたり、10年分くらいある過去問を見せてもらったりしていたので、早いうちからだいたいどんな問題が出るのか聞いていました。試験の内容としてはボーリングの現場技術的な内容が大半を占めるということだったので、実際にボーリング機械を動かすことのない私は、現場に出るたびにボーリング作業をジーッと観察するようになりました。時には助手のまねごとをしたり、オペレータの方にいろいろ質問したりして作業の能率を下げることもありましたが、現場が一番勉強になると自分なりに考えていました。しかし、春先ごろにひまな時期があったので、実際に地質調査技士の過去問に取り組んでみたとき、自分が思っていたほどは甘くなく、わからない問題がたくさんありました。そこで、事前講習会に参加することにしました。事前講習会では、テキストは素晴らしいものをもらいましたが、内容が基礎知識から現場技術や安全管理まで多岐にわたるため、二日間かけた講習会でしたが受験テクニックを駆け足で教わったという感じでした。それからは、ほとんど受験勉強しないままに試験一週間前を迎え、過去問だけやって試験に臨みました。試験後も全然自信がなく、「自信がないときは落ちているものだ」という気持ちでおりました。

しばらくして発表の時期が来ましたが、たまたま、全地連の技術フォーラムがおこなわれている松山へ出張していた先輩から合格者の掲示版に私の名前が載っていたことを聞きました。しかし、合格通知は送られて来ないし、只間違ってこともあるしと思っていたところ、今度は合格通知よりも早く協会『地質調査技士に合格して』の原稿依頼のＦＡＸが会社に届きました。それから１週間くらい経って合格通知が届いて、本当に合格していたんだと安心しました。

合格はしたものの、試験を受けてみて、まだまだ経験も浅く、わからないことも多いことを痛感しました。今後、地質調査業に従事するにあたって勉強しなくてはならないことがたくさんあると感じました。

最後に地質調査技士試験を受験した感想として、私見を述べさせていただきたいと思います。

正解に対する解説がないため、未熟な若手技術者の私としては、理解していないままに終わってしまった所があると思います。

残念だったのが、出題ミスと思われる問題があること。今年の試験でもおかしいと思う問題がありましたが、過去問を見ても、よくわからない問題や択一式なのに答えが２つある問題がいくつかありました。建設大臣認定で、社会的な認知も進んできている資格であるということなので、これからも価値のある資格であってほしいと思います。

新協地水㈱　石　井　六　夢

1．なぜ地質調査士を受験したか

私はこの会社に入って次々に現場を持つことになり、その中で施主との打合せも経験することになった。打合せで施主は「あとは専門家にまかせます」という場合もあるし、こちらの言い分になかなか納得してくれないこともある。

ところで地面の下のことはなかなか理解しづらいというが、それ以上に地面の下のことを人に説明するのは難しい。大学の地質系の同級生と話をするなら話が通りやすいが、施主に「地質」を説明したりすると、施主に「こいつは経験が浅そうだし、言っていることのレベルにしたって何の証明もない」と思われかねないなと感じることがあった。

このようなわけで、自分自身に「品質保証」がほしいと思ったのである。品質保証とは資格である。現場を担当していくなかで、施主に「私が責任をもって何とかしましょう」と言え、相手に信頼してもらえるためには、自分が何か最低限の「保証」を示す必要があろう。施主にも会社にも自分を認めてもらいたいという気持もあった。

私の年齢で「地質」に関連した資格は「地質調査技士」と「技術士補（応用理学）」である。後者については、昨年取得することができたので、次の目標は「地質調査技士」と考えていた。

…というようにここまで偉そうなことを言ってしまったが、実のところ受験申し込みの直前まで、「まだ経験も足りないし、絶対受からないから来年にしようかな」と悩んだ。しかし、受けなければ可能性は０％だが、受ければ10％くらいの可能性はあるだろう、と判断して申込書を提出したのである。

2．受験に向けての対策

６月の講習会を受けさせてもらえることになったので、講習会で、出来るだけ試験内容を頭に入れようと努力した。

ところが講習会後、講習会で勉強したつもりになってしまい、ほとんど勉強が進まなかった。試験の10日前にこれではまずい、とにかく過去問だけはやっておかないと思い過去問に取り組んだ。講習会のテキストには過去問が２年分ついているが、それ以前の問題も写させてもらって５年分くらいを集めた。そして５年分を各２回づつ解き、問題に慣れるようにした。

実際、過去問題の正解状況といえば、選択問題は70問あるが、なかなか50問正解の壁を突破できなかったのが実情で、合格は厳しそうだなと感じながら試験当日に臨んだ。

3．試験当日とその後

筆記試験はあまり満足のいく出来ではなかったと思う。「基礎知識」でもケアレスミスがあったし、筆記問題にいたっては苦手なことが出て、ない知識を振り絞って無理矢理書いたようなものであった。

午前中がそんな状況だっとので、午後の面接はかえって開き直った気持ちで受けることができた。「まあ自分の経験したままのことを正直に話そう」と思った。面接の最後には「地質調査技士の資格はぜひ欲しいので、今年落ちても何度でもチャレンジします。」とまで言っていた。

９月の半ば頃合格発表があると聞いていたが、なかなか連絡がなく、インターネットのホームページで「建設通信新聞」の記事を閲覧してはじめて合格を知った。

4．地質調査技士に合格して

合格はほとんど無理だと思っていたので合格はうれしかった。しかし「地質」のプロまでの道のりはまだ始まったばかりであることを実感している。

現在、会社では地下水調査の仕事を担当しており、地質と密接に関連した地下水の問題に取り組むことが多い。地下水調査では、現場ごとに違っ

た問題が起こり、問題を解決することが求められている。

一つは地質によって地下水の分布が変わるように感じられる。地下水を開発する場合、地質が沖積層の砂礫である場合、花崗岩である場合、火山である場合では、目的に合わせて調査のやりかたも変わってくる。

その他土壌・地下水汚染の仕事にも取り組んでいるが、この場合も地質・地下水に密接にかかわりがある。地質を判定し、帯水層をつかみ、どの地層が汚染されているかを把握する必要がある。汚染問題は調査を実施し、地層に穴を開けるだけで汚染を拡大する恐れがあるので、ボーリング孔の掘削についても慎重に検討する必要があることを痛感している。

地質や地下水の問題については「現場から学ぶ」姿勢が大事だと思う。この現場ではこうやって問題を解決した、とか調査方法にこのような問題があった、などを現場の進行中あるいは現場終了後に振り返ることで、次の現場における問題解決に生かすことができるだろう。

地質調査技士に合格したことを励みにしてがんばってゆきたいと思う。